

目的 物質的な豊かさに加えて感性的な豊かさが重視される現代、衣服においてもより快適で着心地が良いもの、個性的なものを求める傾向が強くなっている。とくに若者は服装で自己の個性や感性を表現することに高い関心を持ち、個性を強調したDCブランド商品への志向を強めている。本研究は、このような個性や感性の表現にとって重要な役割を果たすと考えられる衣服デザインの好みや着装行動と性格や感度との間にどのような関連が見られるのかを調査をもとに検討したものである。

方法 女子大生234名を対象に1986年9月質問紙を用いて集合調査法による調査を実施した。主な調査項目は、好きな衣服・色・素材・シルエットのイメージ、着装行動、性格、感度などで、性格については三上英子氏が作成した尺度を、感度については、山下富美代氏らが高感度尺度をもとに作成した60項目の尺度の中から32項目の尺度を用いた。データの集計・分析には、単純・クロス集計、因子分析の手法を用いた。

結果 好きな衣服デザインについては、あっさりして澄んだ色、柔らかくて滑らかな素材、自然でシンプルなイメージの衣服が好まれていることが明らかになった。性格別、感度別、着装行動別に好きな衣服デザインとの関連を検討した結果、女性的な性格の人は、より明るい色、しなやかな素材、おちついていてひかえめなイメージの衣服を好む傾向が見られた。感度の高い人は、はっきりした色、細く密な素材、セクシーでおとなっぽいイメージの衣服を好む傾向が見られた。また、着装行動との関連においても高い相関がみられた。好きな衣服のイメージについての因子分析結果からは、主要な6因子が抽出された。